

日独米における省エネ環境建築の話題を提供

日本断熱住宅技術協会・
日本外断熱協会



▲挨拶する田中理事長

(一社)日本断熱住宅技術協会(田中辰明理事長)とNPO法人日本外断熱協会(堀内正純理事長)は4月12日、東京・港区の機械振興会館会議室において、「日本・ドイツ・米国における省エネ環境建築の最新」と題するセミナーを開催した。

両協会は断熱技術を通じて「持続可能な社会の実現」への貢献を目標に、主に共同住宅や病院、事務所などのRC造建物の外断熱工法に関する普及に際して中立組織の立場で行政への働きかけや消費者への啓発を行い、外断熱工法による建物の建設推進に向けて活動を行っている。

今回行われたセミナーは、両協会が共催して実施する公開セミナー。ドイツの環境建築家のヴォルフガング・レーナート博士と米国のパッシブハウスコンサルタントの岡田早代氏(マサチューセッツ州建築士・AIA正会員)を迎え「日本・ドイツ・米国における集合住宅の今、高経歴マンションの長寿命化とは」をテーマに講演が行われた。

会の冒頭、挨拶に立った田中理事長は「先程、日本断熱住宅技術協会の総会が行われた。この総会では毎回、外国から著名な研究者を招き、講演を頂いているが、本セミナーにてご講演を頂くレーナート博士も以前に総会講演会にてご登場を頂き、日本ではSDGsがほとんど知られていない時に、持続可能な社会の実現としてSDGsの取り組みを紹介してもらった。コロナ禍の状況で、日本国内に招待する機会が失われていたものの、規制緩和により再びレーナート博士の講演を聞くことができるのも嬉しい限りである。今回はドイツの断熱の状況や省エネ環境建築の最新情報を伺えるのではないかと。本セミナー開催にご協力を頂いた全ての方々に深い感謝を申し上げますとともに、ぜひともグローバルな視点で世界の省エネ環境建築の話題に触れていただきたい」と語り、最初の話題提供である『日本における外断熱の歴史と必要性』と題して情報提供を行った。

続いて『ドイツにおける(集合住宅)省エネ環境建築の最新情報』をテーマにレーナート博士が講演(通訳・解説:田中辰明氏)を行い、休憩を挟んで岡田氏が『米国における(集合住宅)省エネ環境建築の最新情報』をテーマに講演を行った。その後、『補助金を活用した外断熱改修事例と合意形成』について大橋周二氏(㈱大橋建築設計室)、『高経歴マンションの長寿命化(再生)工事』について高屋利行氏(㈱高屋建築設計環境デザインルーム)が講演を行った。会場には外断熱への関心が深い聴講者が訪れ、盛況なセミナーとなった。

協会では、今後も定期的にセミナーを開催することで外断熱工法普及に向けて役立つ技術や情報を提供していくとのこと。

生と床仕上材の不具合

ご注文は工文社まで▶FAX 03-3866-3858